

2021 王道家杯 東関東支部秋季大会 大会要綱

出場資格	東関東支部茨城ブロック15、千葉(西ブロック12、東ブロック8、南ブロック11チーム)31、計46チームに所属に所属する登録選手(欠場:鹿島・土浦・守谷・古河・銚子・白井・印西)参加39チーム					
関東大会選考方法	支部大会のトーナメントよりベスト4、敗者戦より6チームの、計10チームが秋季関東大会に出場する					
日程 試合開始時刻	予定日:8月22日(日)、29日(日)、9月5日(日)、12日(日)、19日(日)、20日(祝日)、23日(祭日) ・・・7日間 予備日:中止になった翌週の土曜日及び日曜日 第一試合9:00、第二試合11:00 第三試合13:00を原則とする					
審判員	支部 派遣審判員					
試合	関東連盟大会規則による(同連盟HPにアップされている) ただし、決勝戦にも4回10点、5回7点コールドゲームを適用する(3回13点を取り入れる) 敗者戦も含めて、当初組み合わせ表の若番チームを1塁側とする 投球制限は、日本リトルシニア関東連盟東関東支部ガイドラインによる					
コロナウイルス感染拡大防止	大会出席者の検温実施並びに参加チームは消毒液(シート等)持参の事 選手整列は先発メンバー9人とし、他選手はベンチ前に整列の事。 ヘルメット等共用品は使用後その都度消毒を行う* 父兄2名のベンチ入りを認め消毒対応(私服で) 試合終了後はベンチの消毒を行い退出する * 別紙「東関東支部コロナウイルス感染拡大防止対策」の詳細により対応の事					
荒天時の対応	大雨等明らかに無理な場合を除き、天候不良の場合でも第1試合のチームは、基本的にグラウンド責任者に連絡することなく開始時間1時間前迄に集合すること。 グラウンド責任者は、天候不良の場合、天気予報、グラウンド状態を勘案し小林支部競技部長と協議のうえ、極力早く中止又は待機を決定し該当チームに連絡する。 種々の都合により試合時間、グラウンド、審判員の配置等を変更することがある。					
表彰	優勝・準優勝・第3位・第4位					
大会競技委員	大会顧問:三木 慶造(連盟副理事長)、小松崎 政次(連盟総務部長) 小林 喜一(支部長兼支部競技部長)090-4921-3645 中島 洋(支部競技副部長)090-2665-0938 櫻井 道徳(支部競技委員)090-4667-0983 青木 行一(支部競技委員)090-1045-2535 相葉 延市(支部競技委員)090-2633-3306 椿 和彦(支部競技委員)080-4142-0995 山本 久(支部競技委員)090-2646-6455 小島 慶明(支部競技委員)090-3008-9808 太田 忠夫(競技委員)090-1040-6165 立松 弘通(競技員)090-4200-6781 粕谷 哲也(競技員)090-4616-9012 加瀬 文江(競技員)080-1096-5460 高橋 幸司(競技員)080-3350-7783 後藤 敦(支部広報部長)090-5206-1189 椿 和彦(支部広報副部長)080-4142-0995 谷口 昌弘(支部審判部長)090-3349-7536 柴田 公一(支部副審判部長)090-4065-7297 飛田 泰宏(総務部長/茨城ブロック審判長)090-1504-2961 中村 新悟(東ブロック審判長)090-1116-4465 大川 茂昭(西ブロック審判長)090-4623-9573 川俣 滋彦(南ブロック審判長)090-5191-1909					
グラウンド提供チーム	千葉ブロック			公営球場		
	チーム名	グラウンド責任者	携帯番号	チーム名	グラウンド責任者	携帯番号
	柏	立松事務局長	090-4200-6781	たつのコスタジアム	小林事務局長	090-4921-3645
	千葉北	山本事務局長	090-2646-6455	山桑球場	鈴木事務局長	090-8771-8514
	木更津	粕谷事務局長	090-4616-9012			
	君津	和田事務局長	090-2677-3436			
	茂原	大羽澤事務局長	090-8877-1267	茨城ブロック		
	成田	加瀬事務局長	080-1096-5460	友部	高橋事務局長	080-3350-7783
	佐倉	高橋事務局長	090-4054-4223	取手	豊島事務局長	090-1611-0990
	香取	伊能事務局長	090-4058-6717	竜ヶ崎	小林事務局長	090-4921-3645
グラウンド提供チームにやっていただくこと ・グラウンド使用料、審判・役員弁当代の徴収、領収書発行 ・審判及び役員の弁当代(600円程度) ・グラウンド責任者は、試合経過を関東連盟のHPにアップする						
グラウンド使用料 審判役員弁当代等	グラウンド使用料	各チームは、当日朝グラウンド使用料として1試合当たり2,000円を提供チームに支払う。				
	試合球	試合球は協会の公認契約スポーツメーカーの刻印が確認出来る硬式球とする。 試合開始前メンバー表(5枚)交換時に3球、試合中不足分はその都度抛出する。 試合後試合球は両チームに戻す。				
	ロージン	試合で使用使用するロージンバックはメンバー表交換時に確認し両チームで管理する。				
	役員及び審判弁当代	各チームは役員及び派遣審判の分として購入金額(700円/人)を出場チームで均等に割った金額を弁当代として提供チームに支払う。				
	審判交通費	派遣審判の交通費は各チームが、大会終了後支部事務局からの規約に基づく請求により支払うものとする				

1回戦 8月22日

予定

グラウンド	第1試合		第2試合		第3試合			
A柏G	12 柏	-	13 牛久	2 千葉緑	-	3 浦安	-	
B成田G	27 成田	棄権試合 0 - 7	28 鎌ヶ谷	-	-	-	-	
C竜ヶ崎G	31 竜ヶ崎	-	32 九十九	8 茨城	-	9 野田	18 大野	19 君津
C竜ヶ崎G	-	-	-	-	-	37 常陸太田	棄権試合 7 - 0	38 船橋

リトルシニアの投球数制限に関する統一ガイドライン

日本リトルシニア中学硬式野球協会

投手の投球数制限に関しては、次に掲げるリトルシニア独自のガイドラインに基づくものとする。

- ① 1日最大90球以内とし、連続する2日間で130球以内とする。連続する2日間で90球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
- ② 3連投(連続する3日間)する場合は、1日目と2日目の1日の投球数を45球以内(1日目または2日目に45球を超えた場合、3連投はできない)とし、3日目の1日の投球数を40球以内とする。なお、4連投(連続する4日間)は禁止する。
- ③ 大会中は1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球を可能とする。
- ④ 打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認める。ただし、制限数を超過した球数は投球数にカウントし、翌日の投球可能数から差し引く。
- ⑤ 打者に対して投じた投球がボークとなった場合は、投球数にカウントする。また、12秒及び、20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑥ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球はカウントする。
(例：1ストライク2ボールになり申告敬遠をした場合、それまでに投じていた3球は投球数にカウントする。)
- ⑦ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑧ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、この統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

投手の投球数制限における投球可能数のケース

(投球数)

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	予備日
投手 A	90	40		※ 90 (95)	※ 35		90
投手 B	45	45	40		45	45	40
投手 C		80	50		40	90	
投手 D			45	45	40		90
投手 E	45		45	85		90	40
投手 F	90		90		90		90

※ 投手 A の第4日目、打席の途中で制限数「90球」に達したが、当該打者の打席終了まで投球し、その日の投球数は「95球」となった。よって、投手 A の第5日目の投球可能数は「35球」となる。

<様式 A >

※試合毎の投球数は、
様式 Bより転記する。

投球数確認シート

【本部提出用】（試合終了後チームで保管）

大会名 : 2021年 王道家杯 東関東支部秋季大会

チーム名 :

日本リトルシニア中学硬式野球協会

		投 球 数							
球 場 名									
背番号	投 手 名	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
		第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	第 回戦	準々決勝	準決勝	3位決定・決勝
1		球	球	球	球	球	球	球	球
2		球	球	球	球	球	球	球	球
3		球	球	球	球	球	球	球	球
4		球	球	球	球	球	球	球	球
5		球	球	球	球	球	球	球	球
6		球	球	球	球	球	球	球	球
7		球	球	球	球	球	球	球	球
8		球	球	球	球	球	球	球	球
9		球	球	球	球	球	球	球	球
球場責任理事（役員）確認サイン									
球場責任審判員 確認サイン									
監督 確認サイン									

【投球数制限】

- ① 1日最大**90**球以内とし、連続する2日間で**130**球以内とする。連続する2日間で**90**球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
- ② 3連投（連続する3日間）する場合は、1日目と2日目の1日の投球数を**45**球以内（1日目または2日目に**45**球を超えた場合、3連投はできない）とし、3日目の1日の投球数を**40**球以内とする。
なお、4連投（連続する4日間）は禁止する。
- ③ 大会中は1日**90**球投球後、翌日投球を休めば3日目は**90**球の投球可。
- ④ 打席の途中で制限数がきた場合は、当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントし、翌日の投球可能数から差し引く。
- ⑤ 打者に対して投じた投球がバークとなった場合は、投球数にカウントす

- る。また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑥ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球はカウントする。また、雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑦ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

【本シートの運用方法】

- ① 試合終了後、本シート（原本）に投球数を球場責任審判員が記入・サイン後、球場責任理事（役員）及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。
- ② 監督は、サインされた本シート（原本）を次の試合まで保管する。
- ③ 監督は、次の試合開始前に本シート（原本）とコピー2部を大会本部へ提出する。
注）連戦の場合は試合前の攻守決定時に投球数確認シートを相手チームに開示する。
- ④ 鉛筆での記入と複写したシートは、原本としては無効とする。

<様式 B> (1試合用)

投球数確認シート

【責任審判員保管(試合終了後)】

日本リトルシニア中学硬式野球協会

大会名： 2021年 王道家杯 東関東支部秋季大会

チーム名：

試合日： 年 月 日 (第 試合)

球場名：

< 記入例 >		※上段：投球数を正の字で記入 ※下段左：その回の投球数 ※下段右：累計の投球数											
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB-1	TB-2	TB-3	合計
1	関東 一郎	42 球	正正正 15 / 15	正正正 17 / 32	正正 10 / 42	/	/	/	/	/	/	/	42 球

【 記入欄 】													
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB-1	TB-2	TB-3	合計
1		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
2		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
3		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
4		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
5		球	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球

球場責任理事 (役員) 確認サイン

球場責任審判員 確認サイン

監督 確認サイン

【投球数制限】

- ① 1日最大90球以内とし、連続する2日間で130球以内とする。連続する2日間で90球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
- ② 3連投 (連続する3日間) する場合は、1日目と2日目の1日の投球数を45球以内 (1日目または2日目に45球を超えた場合、3連投はできない) とし、3日目の1日の投球数を40球以内とする。4連投 (連続する4日間) は禁止する。
- ③ 大会中は1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球が可能。
- ④ 打席の途中で制限数がきた場合は、当該打者の打席終了までは投球を認める。ただし、制限数を超過した球数は投球数にカウントし、翌日の投球可能数から差し引く。

- ⑤ 打者に対して投じた投球がボールとなった場合は、投球数にカウントする。

また、12秒・20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。

- ⑥ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球はカウントする。また、雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑦ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

【本シートの運用方法】

- ① 試合終了後、本シート (原本) に投球数を球場責任審判員が記入・サイン後、球場責任理事 (役員) 及び、監督へ確認を求め、サインを受けて、責任審判員が保管する。
- ② 鉛筆での記入と複写したシートは、原本としては無効とする。

投球数制限下での理事及び、審判員の試合前 / 試合中 / 試合終了後の流れ

日本リトルシニア中学硬式野球協会

1. 試合前におけるメンバー表、選手登録証等の監督からの受理（理事及び、審判員）

監督からメンバー表、選手登録証等を預かる際、大会1回戦のチームの監督に「投球数制限を適用」する旨を念のため伝える。

2回戦以降は、監督から投球数確認シート(様式 A)を預かった際に、理事及び、審判員は各投手の本日の投球可能数を確認しておく。

2. 試合前の攻守決定及び、メンバー表交換（理事及び、審判員）

審判員より試合は「投球数制限を適用」する旨、両チームの監督及び、主将に伝える。

各インニングの表及び、裏が終了した時に投手の投球数をアナウンスすることを伝え、異議がある場合は速やかに球審に申し出てもらうことを監督にお願いし、投手が第一投を投じた後は異議を唱えることはできないことを伝える。

(特に、打者に対して投じた投球がバークとなった場合、公式記録の上では投球数にカウントしないため誤差が生じることとなる)

3. 試合中の投球数管理（理事及び、審判員）

投球数のカウントは間違えの無いよう、2名体制で行う。

放送係は各インニングの表及び、裏が終了した時に「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球です」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、控え審判員及び、記録員、ならびに理事に確認して、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

4. インニング途中での投手交代（理事及び、審判員）

投手交代時に放送係は選手交代のアナウンス後、「このインニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

監督から球審に異議の申し出があった場合は、上記の3. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

5. 投球数制限に近づいた時（理事及び、審判員、ならびに記録員）

次の投手が準備投球をしていない時は、「そろそろ投球数制限に近づいていますが準備されていますか」と、監督に確認する。

投球可能数が残り5球になった時点で、「〇〇投手の投球可能数は残り5球です」と、アナウンスを入れる。

6. 試合終了後（理事及び、審判員、ならびに記録員）

試合終了時もインニング終了時と同様に、「このインニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。

投球数を記入済みの投球数確認シートの原本(様式 A及び、B)に球場責任審判員がサイン後、球場責任理事(役員)及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。投球数確認シートの原本(様式 A)は監督に返却し、投球数確認シートの原本(様式 B)は責任審判員が保管する。

万が一、投球数について監督から異議の申し出があった場合は、上記の3. 及び、4. と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。